

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

7月号 発行 平成24年7月30日



東日本大震災関連



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の6月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した26品目118検体のうち、24品目110検体は検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、2品目(ウメ、菌床しいたけ(施設))の8検体、基準値を超えたものはありませんでした。品目としては、調査した全ての野菜と畜産物・原乳、菌床なめこ(施設)において検出が認められませんでした。

(表1、2)。7月20日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、たけのこ、ぜんまい、たらの芽(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)となっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。また、この調査結果は、地産地消推進店、地域産業6次化ネットワーク会員、グリーンツーリズム関係者などにお知らせしています。

(表1) 農林畜産物の調査結果(6月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	規制値内で検出された品目と検体数	規制値を超過した品目と検体数	
24品目 110検体	2品目 8検体	0	26品目 118検体

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

野菜類 20品目全て 畜産物・原乳 3品目全て 菌床なめこ(施設)



小名浜魚市場へカツオの 水揚げ

6月27日(水)、29日(金)、7月2日(月)、7日(土)、立て続けにカツオの水揚げがありました。水揚量はそれぞれ約65トン、30トン、39トン、6トンで、まとまった水揚げとなりました。

今回の水揚げでは、いわき市内でも店舗を展開している全国規模の大手小売業者による積極的な販売支援が実施されたことが呼び水となって、地元小売、飲食店等には多くのカツオが並ぶこととなり、多くの消費者の方の舌をうならせました。また、愛知県の大村知事自らのPRによって、同大手小売業者の愛知県内56店舗でも小名浜産のカツオが販売され、初日だけでほぼ完売となったとのことでした。

今回の水揚げでも、一部、風評被害の影響を受けましたが、その一方で、温かいご支援により販売され、漁業関係者にとってなによりの励みとなりました。小名浜には今後もカツオの水揚げが続く見込みです。



(小名浜魚市場へ水揚げされるカツオ)

一般情報



市立三和中学校において 出前講座「森林の働き」 を開催

6月21日(木)、いわき市立三和中学校の1、2年生21名を対象に、木とのふれあいを通して地元の森林や木の利用について理解を深めることを目的に、出前講座を行いました。

校長先生のお話が続いて講師のいわき農林事務所森林林業部樋田主任主査より、福島県やいわき市の森林の状況や、森林の持つ多面的機能(生物多様性保全機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能、水源かん養機能等)について、クイズなどを交えながらの説明が行われ、生徒たちは理解を深めることができた様子でした。

続いて、集めてきた枝や松ぼっくりなどを材料に木工クラフトを行いました。初めのうち、材料をどのように組み合わせて作品にしていくなかで、生徒たちは戸惑っていた様子でしたが、各々素材の特徴を活かしたデザインを考えて作品を仕上げ、木を使ったものづくりを楽しんでいました。



(木工クラフト製作の様子)



森林整備に関する 意見交換会の開催

現在、当事務所森林林業部には、他県職員の方が災害復旧支援のために派遣されており、派遣元の県においては森林土木事業以外の業務に携わっていた方も在籍しています。

6月22日(金)、愛媛県で林業普及指導員をされていた派遣職員(武村俊治主査)を講師に「森林整備に関する意見交換会」を開催しました。意見交換会では愛媛県での森林整備への取り組み内容を紹介していただき、森林経営計画の作成主体である森林組合等と行政機関を交えて、森林整備を実施していく上での課題と対応について意見交換を行いました。

今回紹介して頂いた事例は、愛媛県久万高原町で森林組合が関係機関と連携して実施している「久万林業活性化プロジェクト」で、内容的には提案型集約化施業の先駆けとなったものです。現地には全国各地から視察に訪れる団体も多いとのこと、ホームページには視察のコース等も掲載されています。詳しくは、愛媛県中予地方局久万高原森林林業課のホームページ

(<http://www.pref.ehime.jp/chu52202/shinrin/index.html>)をご覧ください。



(森林整備に関する意見交換会の様子)



「ふれあい農業講座」開催

6月27日(水)、いわき市平下平窪にある平みどり幼稚園において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による「ふれあい農業講座」が開催されました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、消費者に農業への理解と関心を高め、放射線に対する正しい知識を理解して頂くことで、農作物の「風評被害」を払拭し、いわき農業の復興に繋げるための活動を行っています。そのような中、今年度は、2カ所の保育所及び幼稚園の園児とその保護者を

対象にした「ふれあい農業講座」をそれぞれ年4回程度開催することになりました。いわきで野菜を育てて食べることで風評被害の払拭を目指すものです。

今回の講座は、クラブ会員が講師となり、園児に対して野菜づくりの注意事項を説明した後、クラブ会員が園児とともに葉物野菜（ベビーリーフ）種子の播種とバケツ稲（コシヒカリ）の苗の移植をしました。園児は、慣れない作業を保護者と先生及びクラブ会員の話を聞きながら熱心かつ楽しみながら行っていました。

野菜種子の播種とバケツ稲の苗移植を通して、児童とその保護者及びクラブ会員とが共にふれあい、いわき農業への理解が一步進んだ講座となりました。

平みどり幼稚園での開催は今回が1回目で、今後は、8月、10月、12月に講座を開催する予定です。



(ふれあい農業講座の様子)



(バケツに苗を植える様子)



いわきの里川前ふるさと 体験交流委員会が 「子ども農山漁村 プロジェクト福島県 モデル」に継続認定

6月25日(月)、いわき市川前町の川前町商工会において、グリーン・ツーリズムの実践団体であるいわきの里川前ふるさと体験交流委員会に「子ども農山漁村交流プロジェクト(1)福島県モデル」の認定証書を伝達しました。これは、委員会が平成22年度から引き続き県モデルの認定を要望し、福島県ふるさと子ども夢学校推進協議会長から認定されたものです。

いわきの里川前ふるさと体験交流委員会は、県・市・商工会・農山漁村関係者の連携により交流人口の拡大を図り、地域振興に寄与することを目的としており、平成20年度の設立以来、いわきの里鬼ヶ城、いわき市川前支所、農業・漁業協同組合等の協力のもとに安全・安心な受入体制を整え、県内だけでなく、東京・神奈川等からの小学生親子を受入れ、農林水産業体験、餅つき、食事作り、星空観察等の体験学習プログラムを実行してきたところです。

東日本大震災により中断を余儀なくされましたが、本田副会長からは「宿泊施設である鬼ヶ城は大きな損壊はないので、屋内での体験学習プログラムの実施を増やしている。」「いわきは農産物や空間の放射線量が比較的 low、正確な情報を知らせる必要がある。」「ふくしまっ子体験活動応援事業(2)を有効利用するため、スポーツ少年団やクラブ活動の実施団体への誘致を働きかけている。」といった、復興に向けた前向きな発言がありました。

農林事務所はいわき地方振興局と連携しながら、いわき地方のグリーン・ツーリズムの実践団体を継続して支援していきます。



(体験プログラムの1つである農産物収穫体験)

- 1 小学校高学年を対象に1週間程度の農山漁村交流・滞在の生活体験を推進する、文部科学省・総務省・農林水産省の連携事業。愛称：ふるさと子ども夢学校
- 2 子どもたちの体験活動経費・交通費・宿泊費を補助する福島県教育委員会の事業。活動応援補助事業と移動教室体験活動応援補助事業がある。



「食農応援出前講座」開催

6月27日(水)、いわき市立三和中学校において、「農業でがんばっている人たち」をテーマに出前講座が開催されました。

三和中学校の1、2年生23名が、「総合的な学習の時間」の中で各自テーマを設定して三和地区の農業及び林業について調べ、学習の資料としてとりまとめて文化祭での発表に役立てることを目的に行われました。

講座では、いわき農林事務所の普及指導員が講師となり、いわき市の農業の現状や三和地区での営農の取り組み状況、さらに昨年の東日本大震災からの復旧・復興に向けた農林事務所の活動状況の説明を行いました。

生徒たちは、三和地区各集落で取り組んでいる水稻直播や大豆栽培、りんどう栽培について関心を高めた様子でした。

今後もさまざまな機会を通じて、将来を担う多くの生徒たちが、いわきの農業に関心を持つような取り組みを進めていくこととしています。



(熱心に講座を受ける生徒たち)



「愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？」施設巡りバスツアー

6月29日(金)、愛谷江筋愛護会(愛谷堰土地改良区等)といわき農林事務所農村整備部が共同で、農業用水利施設等を見学する「愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？」施設巡りバスツアー(愛谷堰土地改良区施設見学・説明会)を開催しました。

この見学・説明会は、地域の農業用水利施設について理解を深めてもらうとともに、施設の維持管理の大切さを知ってもらうことを目的として開催し、土地改良区の関係者や夏井小学校の児童たちが参加しました。

当日は、夏井小学校をバスで出発し、愛谷堰土地改良区の菅波事務局長の説明を受けながら、北白土の除塵機と新川サイフォン、愛谷頭首工、小玉ダム、小川頭首工などを見学し、アジサイ散歩道を歩いて夏井小学校へ帰校しました。

参加した小学生たちは、普段あまり目にする事のない農業用水利施設を見学することによって、施設の役割や大切さについての理解を深めることができたようです。



(愛谷頭首工を見学する小学生たち)



(愛谷用水路脇のアジサイ散歩道を歩く様子)



ヨーグルトリキュール 『夜ぐると』の発表会が 開催

7月10日(火)、いわき市平のいわきワシントンホテル椿山荘において、木村ミルクプラント株式会社と合資会社大和川酒造店が共同開発した6次化商品のヨーグルトリキュール「夜ぐると(よるぐると)」の発表会が開催されました。

ヨーグルトリキュール「夜ぐると」は、アルコールを6%に抑え、「のむヨーグルト」(6割)と「純米酒弥右衛門」(4割)にはちみつを加えたコクのあるお酒です。添加物を使わず、賞味期限が1ヶ月と短いため、注文生産となります。

はじめに、商品プレゼンテーションDVDが上映され、風評被害からの“復興の切り札”として「夜ぐると」が開発された経緯が発表されました。

その後、主催者あいさつ、来賓祝辞、木村ミルクプラント株式会社木村社長と合資会社大和川酒造店佐藤社長、さらにフラガール2名による「夜ぐると」のお披露目、乾杯と続き、「夜ぐると」を味わいながらの歓談となりました。

なお、「夜ぐると」のお問い合わせは、
木村ミルクプラント株式会社 電話
(0246)34-2542 までお願いします。



(『夜ぐると』お披露目の様子)

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>
E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

